

第 1 回徳島マリンサイエンスシンポジウムの開催

マリンサイエンスゾーン担当室長兼副課長 上田 幸男

Key word; マリンサイエンスシンポジウム, 徳島大学, 阿南高専, 研究開発, 担い手育成

平成 28 年 11 月 19 日(土)10:00~12:00 に徳島県水産会館大会議室において「徳島県, 徳島大学, 阿南工業高等専門学校による徳島県水産業の成長産業化及び関連産業の振興に関する協定」(以下マリンサイエンスゾーン協定)に基づき, 第 1 回マリンサイエンスシンポジウムが開催され, 漁業者関係者, 一般, 3 機関を含む約 100 人が参加されました。本シンポは徳島県立総合高等学校「まなびーあ徳島」の主催講座(2 単位)及び「徳島県漁業人材育成プログラム」による研修会等に位置付けられていたことから, まなびーあ講座で 2 名, 人材育成プログラムで 10 名の若手漁業者が参加しました。

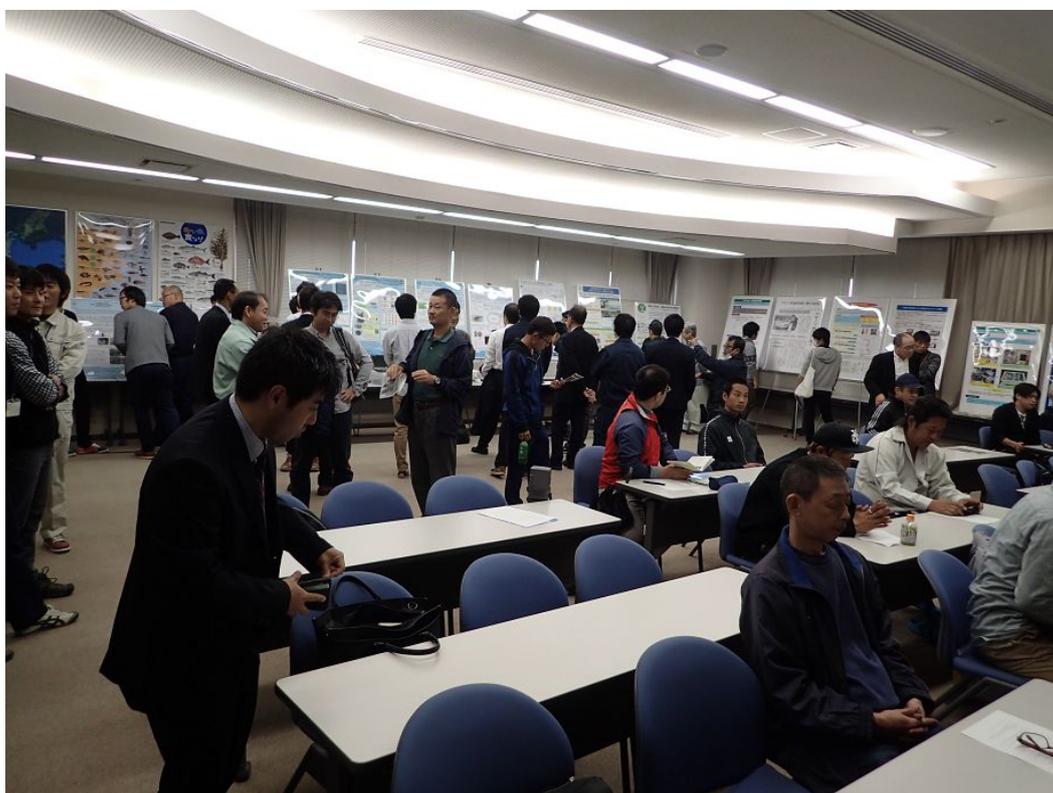


写真 1. シンポジウム前にポスターと実物展示を見学する参加者

今回が第 1 回となるキックオフシンポであり「徳島の海と漁業を考える」と題し, 漁業関係者をはじめとする広く県民の皆様には海と水産研究への興味・関心を喚起することを目的としました。

当日は 9:40 頃から, 展示されたポスターを見学し, 質問する人が多くみられました。10:00 に開会し, 柴折史昭徳島県立農林水産総合技術支援センター所長, 辻 明彦徳島大学生物資源産業学部長, 寺沢計二阿南高専校長が挨拶された後, 4 機関から以下の 6 課題について発表がありました。

1) 高水温・貧栄養化の現状と漁業への影響(水産研究課 吉岡拓也研究員)

水温上昇・栄養塩不足など近年の海の変化と漁業への影響について海洋観測結果等に基

づき紹介しました。

2) 漁船漁業の新技术の紹介(水産研究課 住友寿明主任)

小型機船底びき網と船びき網に関する最近の研究成果を紹介しました。

3) 高水温化に対応した藻類養殖品種の開発(水産研究課 牧野賢治専門研究員，棚田教生主任)

ワカメ，ノリ類の高水温化に対応した新品種や新しい養殖技術について紹介しました。

4) アワビ類種苗生産における新規餌料海藻の導入と将来性(徳島大学 岡 直宏講師)

アワビ類種苗生産現場における夏季の餌不足解消に向けた取り組みについて紹介しました。

5)LED 水中灯及び魚型ロボットによる魚群誘導に関する研究(阿南高専 杉野隆三郎教授)

工学的な観点から LED 水中灯及び魚型ロボットなどの新しい研究と人材育成の取り組みを紹介しました。

6) スーパーサイエンスハイスクール指定校である科学技術高校における水産研究と人材育成の取り組み(徳島科学技術高校 生徒)

ワカメ養殖や藻場造成等科学技術高校ならではの取り組みを通しての人材育成を紹介しました。

総合討論では水温上昇や栄養塩の減少について現場から，「南方系のヤハズグサが増えて困っている」，「透明度も上昇している」などの意見が出されました。

シンポジウム終了後，小会議室で阿南高専によるドローン調査のデモが実施されました。